

小学生(高学年)向け



『かけはし』

中川なをみ/作
新日本出版社 ¥1,600 (税別)

山梨県甲村(今の北杜市)に生まれ、日本統治下の朝鮮に渡り、その風土や民族を優しい眼差しで見つめ愛した浅川巧。ナショナリズムが叫ばれる分断の時代の今だからこそ見直されるべき彼の生き方を綴った物語。



『死について考える本』

メリー=エレン・ウィルコックス/作 おおつかのりこ/訳
あかね書房 ¥3,500 (税別)

「どうしてわたしたちは死ぬのか?」「死んだらどうなるのか?」死について自然科学や文化、宗教などの面から考察する。死について考えることは、自分の生と向き合うことに繋がる。死が身近ではない子どもたちに、ぜひ読んでほしい一冊。



『チェンジ!』

越智貴雄/著
くもん出版 ¥1,500 (税別)

著者のカメラとの出会いから、パラアスリートを撮り続けるに至る現在までのお話。パラアスリートへの尊敬や仕事への情熱がそのまま伝わってくる。物事に真摯に向き合うことの大切さを学べる一冊。次のパラリンピック……見たくなるはず。



『バウムクーヘンとヒロシマ』

巢山ひろみ/著 銀杏早苗/絵
くもん出版 ¥1,400 (税別)

バウムクーヘン作りのため、広島の似島へ行った颯太。そこでバウムクーヘンが日本に伝来した歴史を学び、その裏には辛く悲しい出来事があったことを知る。戦争によって捕虜となったドイツ人ユーハイムと広島の似島の、事実を元にした物語。



『ハナコの愛したふたつの国』

シンシア・カドハタ/作 もりうちすみこ/訳
小学館 ¥1,600 (税別)

終戦後、アメリカから日本に帰国せざるを得なかった日系人一家の少女ハナコの目を通して描いた作品。広島の似島の惨状や戦争孤児の現実を見、困窮した生活の中で生き抜く力を身につけていく。当時日系人が置かれた厳しい状況を知ることもできる。



『パワーブック』

ロクサーヌ・ゲイ、クリア・サンダース/他著 水島ぼぎい/訳
東京書籍 ¥1,400 (税別)

普段は気にしてなくても私たちを取り巻く日常にはいろんな「力」がある。力は私たちの生活に影響を与える。「言葉の力」「お金の力」など様々な種類の力の良い使い方や悪い使い方を紹介した本。



『ブラックホールの飼い方』

ミシェル・クエヴァス/作 杉田七重/訳
小学館 ¥1,500 (税別)

ステラは帰り道で得体の知れないモノに後をつけられる。それはブラックホールだった。パパの死を悲しむ彼女はブラックホールに思い出の品を食べさせ、記憶や事実を消そうとする。だが、最後には自分にとりかけがえのない思い出だと知る。



『ホントに食べる?世界をすくう虫のすべて』

内山昭一/監修
文研出版 ¥3,600 (税別)

児童向けにこれだけ網羅した「昆虫食」の本があるなんて!採取から調理法、日本や世界の昆虫食、栄養価や養殖のことまで、その内容には驚きの連続。世界の食糧事情を考えると、昆虫を当たり前に食する時代になるかもしれない。

その他のおすすめの本

『あおいの世界』

花里真希/著 中島梨絵/装画 講談社 ¥1,400 (税別)

『朝顔のハガキ』

山下みゆき/作 ゆの/絵 朝日学生新聞社 ¥1,200 (税別)

『あの湖のあの家におきたこと』

トーマス・ハーディング/文 ブリッタ・テッケントラップ/絵 落合恵子/訳 クレヨンハウス ¥1,800 (税別)

『おいて、アラスカ!』

アンナ・ウォルツ/作 野坂悦子/訳 フレーベル館 ¥1,400 (税別)

『風のことは空のことは』

長田弘/詩 いせひでこ/絵 講談社 ¥1,600 (税別)

『悲しいけど、青空の日』

シュリン・ホームマイヤー/文・絵 田野中恭子/訳 サウザンブックス社 ¥2,400 (税別)

『こどもSDGs』

秋山宏次郎/監修 パウンド/著 カンゼン ¥1,300 (税別)

『さかな博士のレアうま魚図鑑』

伊藤柚貴/著 日東書院本社 ¥1,500 (税別)

『スイマー』

高田由紀子/著 結布/絵 ポプラ社 ¥1,500 (税別)

『囚われのアマル』

アイシャ・サイード/作 相良倫子/訳 さ・え・ら書房 ¥1,600 (税別)

『ぼくたちの緑の星』

小手鞠るい/作 片山若子/絵 童心社 ¥1,300 (税別)

『モヤモヤそうだんクリニック』

池谷裕二/文 ヨシタケジンスケ/絵 NHK出版 ¥1,200 (税別)